

2010年3月21日 神奈川県茅ヶ崎市の里山公園において第5回全日本トレイル・オリエンテーリング大会(JTOC)が開催され、日本チャンピオンが決定した。(文中での敬称略)

E 権死守をめざして

去る3/21(日)は、茅ヶ崎市里山公園において第5回全日本トレイル・オリエンテーリング(JTOC)大会が開催され、参加してきました。



トレイルOならではのスタート風景

第3回大会でパンチミスをしてエリート(E)権をなくし、その後も単純ミスの連続で、昨年の暮れにやっとE権を手にした。そのときもイージーミスを2個もしたのだったが、10位で何とか獲得できたのだった。

そして今回は、少なくともパンチミスはしないように「〇番は△△・・・」と言いながらコントロールカードの該当欄の縁を指で押さえ、慎重にパンチしていった。

さて、正解表をもらいチェックすると、かなり自信を持っていたところが間違っていたりして5問のミスがあり17位だった。しかし、とりあえず来年のJTOC出場のE権を確保したことでホッとひと息ついている。

TCで1問のつまずき

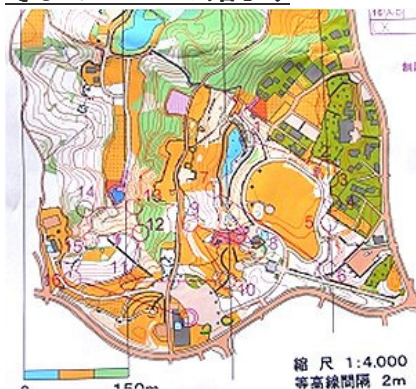
まずはTCから始まる。

TC1: 円の近くのハートマークがよく分からず、そこのところだけ探して50秒の合図になる。あわててそれに近そうに思えるCを押すが、Bの方が良かったかなと思っていた。結果はCで正解だった。ホッ!

TC2: パッと見てAと思った。それでは簡単すぎると思い、よく見ているとBが沢でAは斜面のようにも見える。そ

こでBを押したが、結果はAが正解だった。残念!!

そしてコースの始まり



1番(土がけ、上)は、池の縁の近くの岩は低すぎて上からは見えず、崖の端からの距離を出すのも苦手なので、東の柵と池の中(奥)の岩を結んで解く。

2番(線状の植込み、北東側)は、後方の特徴物(ビニールハウス等)と結んでCとした。しかし正解は、植込みから離れているという事で「Z」だった。ほとんどの人が間違えた。後で現地を確認したが、誤差の範囲内と思えたが。(34人中1名の正解2.9%の正解率:こやま注以下同)

3番(細い水路、南東のふち)は、解答に取り組む基準点が分からず、距離感とコンターとの関係からCとしたが、Bが正解だった。

4番(フェンス)は、距離感とコンターとの関係から解く。

里山らしくないコントロール

ここまではパーク・トレイルO的な設問だった。里山での競技ということで細かい地図読みがあるかと期待していたので、ちょっとがっかり。

5番(こぶ、南の部分)は、地形読みではあるが簡単。DPから見ただけでCと分かる。もちろん正解ナシを考えて南に回り込んでもみて確認する。



6番:A-D 沢

6番(沢)は、パッと見コンターの感じからはCだったが、後方に十字路があり、そことの関係を見ている。道の延長を見るとCは反対側(上側)に行くのでBを選んだ。結果はCが正解だった。コンターを改めてみると、A付近は緩やかで、D付近は急峻という斜度が地図では表せていないように思う。少なくともCを通るコンターを上へ(D側へ)引き寄せえあれば現地とのイメージが合い、ミスることはなかったと思うのだが。

遠距離の「Z」判断は難しい



7番(柵)は、手がかりにするものが他に適当なものがなかったのでやむなく遠くの建物と後ろの塔を結んで決めた。柵の長さから「正解ナシ」を選んだ人もいたが、これほどの遠距離を目測だけに頼って「正解ナシ」にするにはかなり勇気がある。(正解率=52.8%)

8番(まん中の、藪と藪との間)は、該当する藪(植込み)がわかればやさしい。

コンクリート壁の曲がりとの関係から別のフラッグを選び、間違えた人がいたようだが、「何々の間」はあくまでもその特徴物の間である。

9番(沢)は、一見難しそうに見えるが、池との関係や、階段のある小道との関係を確認すれば、フラッグ群が離れすぎていて、「正解ナシ」は明白だ。

10番(滑り台の下)は、N・Bクラスレベルの問題。一応引っ掛けていのではないかを考えるが、それはなかった。全員正解ではないかと思われたが、それでも間違える人がいた。**11番(柵)**は、柵の曲がりからの距離の確認が課題かとも思ったが、目立つ木の北にあるものを選ぶ。

12番(沢)は、道の曲がりとの関係や、道が直線になった部分の延長との関係から選ぶ。

13番(浅い沢)は、DPの先にある池の近くまで行き、小橋を通してコンパスを振ったり、小道の曲りと関係からみてCを選んだが、見た目が一番低いところにあったBが正解だった。後で分かったが、ほとんど直線と思っていた植生界には微妙な曲がりがあった。DPから12番の方へ戻り、南の方からも見ればよかったかなと。

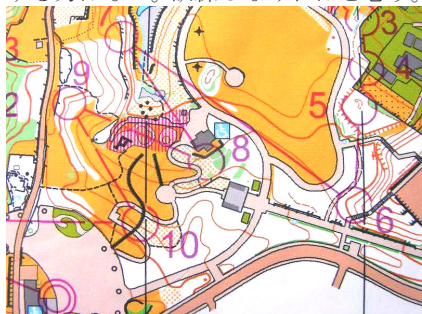
14番(藪の中の尾根、下部)は、沢との位置関係から選ぶ。尾根の下部とは言い難いところとは思ったが、地図のイメージとは一致していると考えた。

15番(凹地、南の部分)は、植生界は地図ほどははっきりしていない。ただ、Aは奥の藪にくっついているようにも見える。そうすると植生界らしいものが見えてきてそこにはフラッグがない。それで「正解ナシ」とした。

16番(沢)は、沢を下る目立つ管(太いパイプ)があり、その上部には1つしかフラッグがない。Bクラスの設問のようである。という引っかけがあるかと疑うが、道の分岐と下の東屋を結んでもびったりくるし、普通に「正解アリ」だった。

ふりかえって

7番(柵)について、Aが正解か、それとも「正解ナシ」かで一番の話題になったようだ。しかし、私にはあれほどの遠距離のものを目視で判断(計測)する力はない。訓練しなければと思う。



私にとってのもうひとつの問題は6番(沢)だった。コンターだけを見ればたしかにCであるが、近くに明確なチェックポイントの十字路があり、その延長線から見れば円の中心は反対側へずれ、Bが正解に見える。競技終了後に確認に行っても同じだった。

ここは十字路をチェックポイントとしては使わず、コンターだけで判断するべきところだったのだ・と自分に言い聞かせる。ある意味では7番と同じである。

コースセッターにしろ、コントローラにしろ、チェックしなければいけないところは山ほどある。ひとつのコントロールについても、いろんな角度から見なければいけないが、コントロー

ルが多ければ、また時間が少なければチェックが不十分になることもある。コントローラが簡単に解けると、それでOKということになることもあるが、競技者はそれぞれ百人百様の見方で挑戦してくるから怖い。

(児玉 拓)

さて今年のチャンピオンは

厳しい戦いが終わって成績確定が待たれる。時間がかかっているようだ。やがてウッド・デッキにビールのコンテナを利用した「お立ち台」が並べられていよいよ表彰式が始まる。

日本チャンピオンの座には田中 徹(京葉 OLC)が見事カム・バックし、ふたたびトレイルO世界選手権大会(WTOC)代表の資格をゲット。

②位には昨年世界3位で日の丸を揚げた木村治雄(入間市 OLC)が同点44秒差で入る。

③位は、同じく昨年のWTOCのDay-1トップの成績で世界にショックを与えた田代雅之(静岡県)が入った。

この3人は、いずれも同点秒差の成績である。厳しい争い・というしかない。

山西新JOA会長から賞状が手渡される。神奈川県協会会長からメダルがかけられる。見ている我々も気分が高揚してきた、なんとも嬉しい場面となる。



木村 田中 田代

Pクラスは木島が連覇

P(パラリンピック)クラスの表彰台上がったのは、このところ向かう敵なしの①木島秀登(豊中市)である。得点は14pと、オープン・クラスでも6位に並ぶ好成績で連覇したのは見事。(TCでは失敗したが、コースの2番での唯一人の正解者でもある！)

②位は高柳宣幸(港南 OLC)が、③位には(多少老けた)新人の森 長三(長崎県協会)が入った。



Pクラス： 高柳 木島 森

Eクラス20位まで+Aクラス3位までは来年度のE権獲得

●オープン・クラス

① 田中 徹	16p	31sec
② 木村治雄	16	75
③ 田代雅之	16	156
④ 松澤俊行	15	38
⑤ 山口拓也	15	72
⑥ 山口尚弘	14	36
⑦ 八重樫集	14	76
⑧ 伴 毅	14	80
⑨ 杉本光正	14	84
⑩ 鈴木規弘	14	99
⑪ 木島英登	14	171
⑫ 大久保裕介	13	27
⑬ 岩村正樹	13	35
⑭ 吉村年史	13	40
⑮ 福田雅秀	13	42
⑯ 阪本 博	13	102
⑰ 児玉 拓	13	137
⑱ 松矢将太郎	13	139
⑲ 松橋徳敏	13	149
⑳ 内藤愉孝	12	71

●パラリンピック・クラス

① 木島英登	14	171
② 高柳宣幸	6	120
③ 森 長三	4	180

●Aクラス

①小橋昌明 ②橋本龍真 ③梅林正治

松澤 驚異の大活躍

最後に特筆を欠かせないことは、松澤俊行の活躍である。フットOでのトップ・エリートとして日本を代表する彼が、④位につけたことだ。ほとんどのトレイルO大会に出場し、コンスタントに上位につけてきてはいたが、全日本大会で4位入賞とは誰が想像していただろうか。成績も③位とはわずか1pの差である。もしこのミスが無かったならば なんと木村を抜いて②位に入っていたのだ。今に、フットOのWOCと、トレイルOのWTOCの両方に同時に日本代表として出場するということもあり得るかもしれない。おそろしく、頼もしく、嬉しいことである。

(こやまたろう)